SOMPO JAPAN FOUNDATION NEWS　２００４－４号　　平成１７年３月

損保ジャパン記念財団 News

●発行者：財団法人損保ジャパン記念財団 〒160-8338　東京都新宿区西新宿 1-26-1　損保ジャパン本社ビル 37 階
TEL03-3349-9570 FAX03-5322-5257 http://www.sompo-japan.co.jp/foundation　Eメール:fvgp3340@mb.infoweb.ne.jp

「損保ジャパン記念財団賞」の授賞文献が決定されました

第6回（平成 16 年度）「損保ジャパン記念財団賞」は、指定推薦者から著書部門で32編、論文部門で16編と多くの推薦をいただきました。

平成16年10月12日（財団会議室）、平成16年12月21日（同）、平成17年1月8日（同）、平成17年1月26日（同）の計4回の審査委員会を開催し、前記推薦文献のほか7学会誌の文献も参考にしつつ、社会福祉学の学術面の向上に大きく寄与し、優秀な研究者の人材育成を図るとの観点から議論し、厳正な審査を重ねてきました。結果、下記に記載の著書1編、論文1編が受賞に相応しい候補文献として厳選されました。推薦された文献は、平成17年2月3日開催の臨時理事会において、16年度の損保ジャパン記念財団賞に決定されました。

著書部門（１編）

『中途失聴者と難聴者の世界』

第一福祉大学人間社会福祉学部

社会福祉学科（通信教育部）　助教授　山口 利勝 氏

「音声コミュニケーション障害」という視座を通して、中途失聴者である筆者が自身の体験について、社会学・心理学・文化人類学、精神医学等の理論を援用し、また筆者以外の聴覚障害者の体験とも比較考察しながら、発生する問題を客観的に論述し、生活上の様々な問題への対応策を提示している。その研究内容は社会福祉学研究の新たな分野へ踏み込み、特にソーシャルワーク研究の分野にも大きなインパクトを与えるものとなっている。

論文部門（１編）

「高齢者福祉施設スタッフの QWL 測定尺度の開発」

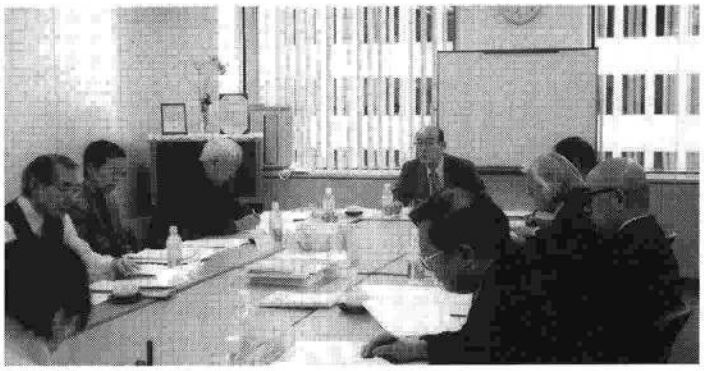
関西福祉科学大学 社会学部

社会福祉学科 専任講師　李 政元 氏

高齢者福祉施設スタッフの職場環境における待遇、上司との関係、同僚との関係、成長満足度の4つの基本的欲求に対する満足度を測定するQuality of Working Lifeの尺度の開発を試みている。介護施設スタッフの職業生活の質を充足する手だてを考えることは、喫急の課題であり、良質の介護を提供する条件を提示する点においても時宜を得た論文となっている。

なお、贈呈式は、3月29日（火）午後5時より損保ジャパン本社ビル37階で開催されます。

平成17年1月26日
審査委員会の様子　→
（財団会議室にて）



NPO法人設立資金助成に次ぐ
新たな市民活動支援事業を目指して

NPO法人座談会を開催しました in 仙台

平成11年度より始まりました「NPO 法人設立資金助成」は6年を経過し、これまでに全国約570のNPO法人の設立を支援してきました。この助成は、法人化前の段階で、かつ設立のためであれば原則使途は問わないという画期的な助成として、受け手のNPOからは「これまでに無かった使い勝手の良い助成資金」として高く評価を受け、現在もなお多くの申請を受け付けています。



平成17年2月9日
座談会の様子 →
(仙台支店会議室にて)

当財団では、我が国の低成長経済の長期化、急激な少子高齢化社会の到来などの時代変化の中で、特に年金・医療・介護等を含む社会保障のあり方や制度が大きく変化し、地方の役割や国民一人一人の自助のウエイトが高まる社会を迎えることを見通し、そのような社会では、地域における市民活動の活性化が、変わり行く社会を支える大きな原動力になると確信し、福祉分野における市民活動(NPO)団体の支援に取り組んできました。

その第1弾が「NPO法人設立資金助成」で、地方分権が進み、介護保険や支援費制度を中心とした地域福祉の充実が強く望まれ、地域で支える地域社会の構築が目指す方向として示される中、その担い手としての福祉系NPOの法人化は社会的信用度・認知度のアップ、持続的活動のための基盤確立等に寄与し、サービスの向上につながることを期待した助成事業です。

この間、全国に約2万の NPO 法人(うち福祉系は約半数強)が誕生し、地域を支える主体として広範な分野での活動が始まり、国も地方自治体もその育成に力を入れてきています。自治体の中には、当財団の設立資金助成と同様の支援を実施するところも出てきました。

しかしながら、すべての法人が順調に成長しているとは言えません。法人の中には、資金難や人材難を抱えながらも、熱い使命感で活動を継続している団体が多くあるのも現状です。

NPO法人設立資金助成は、上記のように初期の目的を果たしつつありますが、法人化したNPOが法人としての軌道に乗り、社会的役割を果たしていくためには、組織・事業の強化が必要であり、今日の課題ともなってきています。

上記の背景や将来の姿を視野に入れ、当財団では設立資金の助成と平行しながら、次の

ステップとして、すでに設立されたNPO法人への新たな支援事業の検討を始めています。

その準備として、昨年1都3県の助成先9団体の皆さんにお集まりいただき、「NPO法人の活動を更に飛躍させるために必要な課題は何か？ 財団が行うNPO法人支援として、どのような助成を期待したいか？」などのテーマで意見交換会を開催、また、NPO支援団体や各地のNPOセンターの皆さんとの会合を開催してきました。

去る2月9日（水）には宮城県下の助成先（平成11年度から16年度にかけての宮城県下の助成先15団体）に集まっていただき、損害保険ジャパン仙台支店の会議室で意見交換会を実施しました。夕方5時からにもかかわらず、14団体22名の方々が参加され、NPO法人設立後の各団体の活動状況、現在の課題、将来の構想など熱く語っていただきました。また、助成財団に対する要望や具体的案件などについても意見交換を行ないましたが、新規事業に対する各団体の期待の大きさが感じられました。仙台支店の土山総務課長、鳥居総務課長代理も同席され、充実した意見交換会となりました。

財団では、これら一連の意見交換会で出された貴重な意見やアドバイスを参考に、設立資金助成に次ぐNPOの基盤強化に向けた新たな助成事業を検討し、我が国福祉系の市民活動の活性化を通し、地域福祉の充実、サービス向上の実現ならびに支えあう地域社会の実現に向け努力していきたいと考えています。

路上生活者への支援活動に参加しました

「損保ジャパン記念財団賞」記念講演会は、人材育成を兼ね会場を提供いただいた大学の大学院生の協力を得て開催していますが、その協力者の一人である東洋大学大学院生の後藤さんは社会福祉学の研究に励む傍ら、社会福祉の現場での活動を実践しています。

昨年11月24日（水）、その活動の一つである特定非営利活動法人【山友会】（路上生活者の支援団体）活動に富沢事務局長、神納職員、武藤スタッフの3人が同行しました。

近年の社会福祉には、主にイギリスで実践されている「ソーシャル・インクルージョン」という概念が紹介され、我が国での実践が研究されています。これは障害者や高齢者ばかりではなく、社会的に何らかのハンディキャップを負っている人々を含め、地域で支えていく社会システムの構築が必要ではないかという考え方です。そのような社会福祉の方向性を実感できる活動の一つがホームレスに対する支援活動であることから、今回は当財団職員の体験学習を実施しました。



山友会さんに初めて伺って、いろいろな方が関っているのに感銘を受けました。日本の方はもちろん、フランスやアメリカご出身のシスター、アメリカからは日米のホームレスの比較研究をしている大学院生や小児科医を目指す医学生など、国際的です。初めて参加するボランティアの方もすぐうち解けられる雰囲気は、使命感に支えられた山友会さんの長年にわたる蓄積と思います。河川敷のテラスは一種のコミュニティを形成しており、アウトリーチで接触したおじさん（ホームレスの方）のはにかんだような人なつこい笑顔のうしろに現実を垣間見た気がしました。（富沢）

【山友会】は、1984年から通称「山谷地域」にて路上生活を余儀なくされている方々に対して、生活および自立のための支援を続けている団体で、2002年4月にNPO法人格を取得しています。主な活動内容の概略は次の通りです。

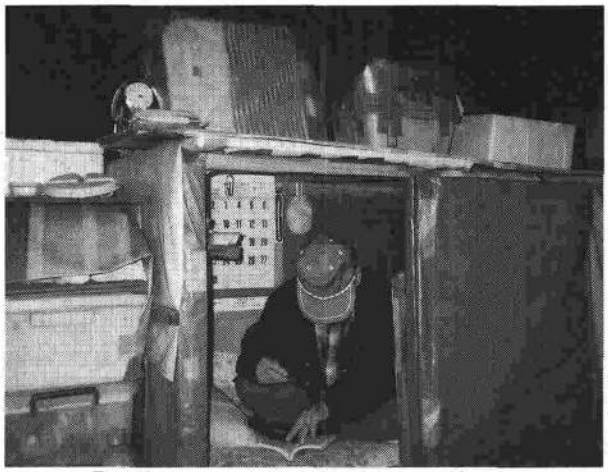
①山友クリニック	ボランティアの医療スタッフによる無料の診療活動。
②相談援助	生活上の問題や健康上の問題に対する相談業務や宿泊所での一時保護。
③憩いの場の提供	1階ではお茶や衣類、2階ではボランティアの人々による食事の提供。
④アウトリーチ	山友会の利用者とボランティアによって調理された簡単な食事を持参し・配食する中で培った互いの信頼関係に基き、生活上のさまざまな相談に応じている。

今回、参加したのは④のアウトリーチという活動です。まず山友会の事務所で、ボランティアの方たちが調理した昼食（寄付で集められた食材を利用したもの）を他のメンバーと一緒に食べた後、ミーティング（本日の活動内容や注意事項、グループ分け等）に参加。

リュックや大きな手提げ袋に配食するお弁当を詰め込み、グループごとに車でそれぞれの活動予定場所に向かいました。

隅田川の河川敷のベンチでは様々な人たちが、思い思いの時間を過ごしています。そのうちの誰が路上生活者なのか、ちょっと見たところでは見分けがつきません。しかし、足元などから大体見当をつけて、まずは勇気を出して「こんにちは」の声かけ。それから「具合の悪いところはありませんか。なにかあったら山友会の事務所に遠慮なく来て下さい」と話をして、お弁当を手渡していきます。

高層ビルやマンションが立ち並ぶ中、東京都と23区が推進する支援策と相俟って、多くのボランティアに支えられ、他の民間支援団体、区役所、病院、福祉施設と連携して地道に活動する山友会で都市型ホームレスの自立支援を体験し、行政だけに頼っていられない民間による地域ぐるみの社会的弱者に対する支援の必要性、あり方を考えさせられた一日でした。



一度だけの活動で表面しか見ていないのに、このように言っていいのか迷うところですが、ただ与えるだけの福祉のあり方に多少の疑問を持ったこと、福祉とはどうあるべきかの根本的な考えに直面させられました。また、人間の生き方にはその人の考えようでどのようにでも生きられることを痛感しました。この活動に参加でき、本当に良かったと思います。皆様にもお勧めいたします。　（武藤）

まず驚いたのが、その建築の見事さです。高床式で、窓やひさしの付いた家もありました。そして、家財道具の多いこと。多分、初めてこの河川敷へやってきた時は、身の回り品くらいしか持っていなかったんだろうと思われるのですが、何年も暮らす間に、道具というものは増えていってしまうのでしょうか。「手に入るときに手に入れておかなければ」という強迫観念からか、これまでの生活習慣からか分かりませんが、人間の“性”のようなものを見せ付けられた気がしました。
“人として生きる”とは、どういうことか。大きなテーマをお土産に、帰ってきました。　（神納）

各地で「自動車購入費助成」の贈呈式が開催されました

先回の財団ニュースでお知らせいたしました「自動車購入費助成」の贈呈式が、東日本各地の損保ジャパンの支店や贈呈先で開催されました。各地で開催された贈呈式の中から、新聞紙上に掲載された主な記事を紹介します。

当財団の「自動車購入費助成」は、小規模ながら地域に根ざした活動を積極的に展開し、法人所有の自動車を保有することで、そのサービスの充実・拡大が更に大きく期待できる団体を重点的に選考しています。今回助成の対象となったNPOの皆さまの事業の充実、更なる活躍を心から期待しています。

損保ジャパン記念財団 福祉団体に助成

損保ジャパン記念財団（平野浩志理事長）はこのほど2004年度の社会福祉助成として東日本地区所在の障害者在宅福祉活動を行う10団体に自動車購入費1000万円を助成した。

なお、同財団では、昨年7月にも全国70の障害者・高齢者団体に対し、特定非営利活動法人（NPO法人）設立資金として1団体30万円、総額2100万円を助成している。

保険毎日新聞（1／20）

自動車購入へ総額1000万助成

損保ジャパン記念財団が障害者在宅福祉活動団体に



亀山・財団理事長代理（損保ジャパン執行役員北東京支店長・左）が「介助派遣サービスレイ」に助成金を贈る

損保ジャパン記念財団（平野浩志理事長）はこのほど、04年度の社会福祉助成金「自動車購入費助成」として、東日本地区所在の障害者在宅福祉活動を行う10団体に、総額1000万円の助成を決定した。

また、東京都の助成先は東京・板橋区の特定非営利活動法人（NPO法人）「介助派遣サービスレイ」と、東京・東久留米市の精神障害者家族会「蒼空会福祉工房第二ごんぐりの家」の2団体で、自動車購入資金として、それぞれ100万円を贈呈した。

同財団は、昨年7月に全国70の障害者・高齢者福祉団体に対し、特定非営利活動法人（NPO法人）設立資金として1団体30万円の合計2100万円を助成している。

また、社会福祉助成では、財団設立以来毎年実施し今年で27回目、助成金の累計総額は11億4000万円に達し、社会福祉助成以外の事業を含む総事業費累計額は約17億円となっている。

【助成団体】

▽特定非営利活動法人「たんぽぽクラブ」（岩手県花巻市）▽盛岡市精神障害者家族会「ユリノキ会」（岩手県盛岡市）▽NPO法人「サポートハウスなすな」（群馬県渋川市）▽社会福祉法人「小規模授産施設よるべ」（埼玉県東松山市）▽NPO法人「ポコ・ア・ポコ」（埼玉県和光市）▽特定非営利活動法人「ハートケアゆーあい」（千葉県千葉市）▽特定非営利活動法人「介助派遣サービスレイ」（東京都板橋区）▽精神障害者家族会「蒼空会福祉工房第二ごんぐりの家」（東京都東久留米市）▽NPO法人「こども応援ネットワーク」（神奈川県横浜市都筑区）▽NPO法人「サポートネットワークゆい」（山梨県北巨摩郡）

保険銀行日報（1／4）



盛岡市精神障害者家族会　ユリノキ会（岩手県）



損保ジャパン財団記念

自動車購入費を助成

たんぽぽクラブ（花巻）に70万円

障害児らの生活支援事業に取り組む花巻市のNPO（民間非営利団体）法人たんぽぽクラブ（牛崎恵理子理事長）は二十九日、損保ジャパン記念財団（平野浩志理事長）から自動車購入資金として七十万円の助成を受けた。

同市若葉町の同クラブで贈呈式があり、損害保険ジャパン岩手支店の坂本守支店長が「約八倍の難関だったが、実績への評価と今後の活動への期待から選ばれた。購入車がサービス向上につながればうれしい」とあいさつした。

決定通知書を受けた牛崎理事長は「来年開始予定のホームヘルプ事業の専用車として活用したい」と感謝。来賓として立ち会った高橋照幸市社会福祉協議会事務局長も「障害者らが安心して暮らせるまちづくりを目指して一緒に頑張る」と祝辞を述べた。

たんぽぽクラブは、十五年四月にNPO法人の認証を受け、花巻市委託の学童クラブや児童デイサービスなどを実施。十七年度からはホームヘルプ事業にも取り組む計画で、購入車は主に障害児者の外出支援など移動介護に活用する。

同財団は昭和五十二年の設立以来、社会福祉助成を毎年実施し、累計総額は十一億四千万円に上る。今回の自動車購入費助成には、東日本の七十九団体から応募があり、県内ではたんぽぽクラブと盛岡市精神障害者家族会「ユリノキ会」の二団体が対象となった。

たんぽぽクラブへの自動車購入費助成の贈呈式

たんぽぽクラブ
岩手日日新聞（11／30）



助成金100万円贈呈

損保ジャパン記念財団（理事長＝平野浩志損害保険ジャパン社長）は10日、知的障害者更生施設「星の里」（北杜市長坂町）の保護者でつくるNPO法人「サポートネットワークゆい」（有賀天聞理事長）へ、自動車購入のための助成金100万円を贈った＝写真。

障害者・高齢者福祉団体の支援活動の一環。同日は星の里で贈呈式を行い、同社山梨支店の深沢克弥支店長が有賀理事長に目録を手渡した。有賀理事長は「冬を迎えるに当たり、自動車を購入できることはありがたい」と感謝の言葉を述べた。

山梨日日新聞（12／11）



特定非営利活動法人　ハートケアゆーあい（千葉県）

寄付金の御礼

次の方々から暖かい寄付金をいただきました。ありがとうございました。当財団の事業資金として大切に活用させていただきます。　（寄付日順・平成17年3月末日現在）

株式会社ジャパン保険サービス 様
損保ジャパンひまわり生命保険株式会社 様
株式会社損保ジャパン・ビルマネジメント 様
株式会社損保ジャパン・システムソリューション 様
株式会社損保ジャパン調査サービス 様
株式会社損保ジャパン企業保険サービス 様
株式会社損保ジャパン・クレジット 様
株式会社損保ジャパン・リスクマネジメント 様
株式会社損保ジャパン印刷サービス 様
株式会社損保ジャパン総合研究所 様
株式会社サンビルメンテナンス 様
安田企業投資株式会社 様
株式会社損保ジャパン情報サービス 様
ユニバース開発株式会社 様
株式会社キャリアビューロー 様
損保ジャパンちきゅうくらぶ 様
他１件